

2010 年 3 月期 第 3 四半期決算 FAQ

Q1: 第3四半期(10-12月)の業績は想定と比較してどうか？

A1: 第3四半期の半導体売上高につきましては、前四半期(7-9月)比で1%減収の1,131億円となり、想定比でも若干の減収となりました。これは、マイコンやディスクリートなどの汎用製品や自動車向け半導体が好調だった一方、民生機器や通信機器向けのLSIが想定よりも不調だったことによるものです。

営業損益に関しましては、円高による利益減があったものの、原価改善や研究開発費の削減により、前四半期から大幅改善の93億円の損失となり、ほぼ想定通りの結果となりました。

Q2: 第4四半期(1-3月)の見通しはどうか？第4四半期の営業損益は、売上高以上に改善する見込みだが、業績予想は達成可能なのか？

A2: 第4四半期の半導体売上高の見通しについては、前四半期比5%強の増収を見込んでおります。アプリケーション別に見ますと、自動車や多目的多用途、ディスクリート・光・マイクロ波は、第3四半期から引き続き堅調に伸びる見込みです。一方、通信機器分野やコンピュータ周辺機器分野に関しましても、前四半期は想定を下回る実績となりましたが、第4四半期にかけて、先端製品向けシステムLSIを中心に増収を見込んでおります。

営業損益に関しましては、売上増による利益増に加えて、需要の強いマイコンの生産強化、後工程ラインの能力増強に加え、山形300ミリラインの工場稼働が改善することにより、生産増による利益改善も見込んでおります。通期の業績目標達成に向けて、生産強化によるさらなる売上拡大と、固定費削減による収益改善を進めてまいります。

Q3: 山形300ミリラインの稼働改善に寄与する製品は具体的に何か？

A3: 山形300ミリラインに関しましては、第4四半期にかけて40nm、55nm製品などの先端プロセス製品の量産が拡大することにより、投入ベースではほぼフル稼働となる見込みです。これらの製品は、主にデジタルTVやデジタルカメラなどのデジタルAV機器、プリンタなどのPC周辺機器などに搭載されるものであります。

以上